

ごあいさつ

～KIIS 設立 50 周年を迎えて～

一般財団法人関西情報センター

会長 森下俊三



当財団の事業活動について、常々格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

私ども財団は、1970年(昭和45年)5月29日に設立され、本年5月で設立50周年を迎えます。当時はちょうど情報化社会の始まりの時期で、関西に情報化社会をけん引する中枢管理機能の拠点が是非とも必要だという構想が打ち出されました。そこで関西の主要経済団体が主体となって、国の機関、地方公共団体並びに学会等のご協力を得て検討を重ねた結果、この構想を実行するための広域的かつ公共的な機関として、関西情報センターが設立されたものでございます。

それから50年間、我々を取り巻く社会や経済状況が大きく変わるのに合わせて、常に時代の先端を行くよう、また会員企業皆さまの要請に応えるべく取組むテーマを選ぶことに努めてまいりました。これまで来られましたのも、設立・運営にかかわっていただいた国の機関、地方公共団体、大学、経済団体、賛助会員等の皆さま、諸先輩方のご指導、ご支援の賜物にほかなりません。この場をお借りしまして、重ねて厚く御礼を申し上げます。

ここで、設立初期段階の事業活動と現在の主要な取組みについて、簡単にご紹介させていただきたいと存じます。

1970年

設立された1970年は情報化社会の始まりの時期でございましたので、大きく二つの取組み、「情報化の普及・推進の活動」と「調査研究の活動」に分けてご紹介致します。

一つ目の「情報化の普及・推進の活動」ですが、先ず大型電子計算機向けのソフトウェア開発がでございます。統計処理などの情報処理を目的とした汎用ソフトウェアの開発のほか、「経営財務・利益のシミュレーションモデル」や「生産管理システム」の開発など、企業の経営管理情報のシステム化といった社会共通のシステム開発にも取組んでおりました。なお、この大型電子計算機ですが、これは大阪万博で使われたのち、私ども財団に移設された経緯がでございます。次に普及啓発活動と致しましては、関西企業の経営トップ層に対して情報化の実態や方向性を知っていただくための取組みとして、当時情報化が大きく先行する欧米への視察団の派遣、六甲山ホテルにお

ける連日三日に亘るセミナー「トップマネジメント・セミナー」を実施するなど、関西地域の情報化の環境づくりに精力的に取り組んでいた様子が伺えます。また、医療情報のシステム化も当時の社会テーマの一つであり、これも産・官・学のご協力得て最新の研究成果発表や情報交換をする場として国際シンポジウムの大阪開催や国内の関係者ネットワークづくりを支援致しました。これらの活動は、その後の病院における医療情報管理システムの開発・導入の契機になったと認識しております。

二つ目の「調査研究の活動」につきまして、当時のテーマをいくつか拾ってみますと、①交通渋滞、大気汚染といった高度成長期を経て顕在化してきた都市問題への対応支援(予測システムの開発やデータベース化)、②地震による被害予測の実施と防災計画の検討、③コンピュータ技術者不足を背景とした人材育成プログラムの実施といった取り組みがございました。当時の社会経済状況を背景に、大型電子計算機の活用やソフトウェアの開発など、その時代の最新の技術力をもって、情報化の推進や社会共通の課題解決に注力していた様子が伝わってまいります。このような取り組み姿勢は、50年経った今も変わらず脈々と受け継がれているものと確信する次第でございます。

2020年

今日は、デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展と呼ばれますように、AIやICTなどのデジタル化が急速に進展し、産業構造があらゆる面に変革してきております。また、2025年に大阪・関西万博の開催が決定し、現在「未来社会」の実現に向けた新しいアイデアが検討されている状況でございます。関西地域の再生・創生といった面におきましても、新しいビジネスモデルが生まれることで、再生・創生に向けた大きなきっかけとなるのではないかと期待しているところでございます。一方で、大型台風や地震による自然災害が頻繁に発生し、その被害が甚大化する傾向にあります。また、サイバー犯罪の深刻化や社会インフラ設備の老朽化などもますます懸念される状況でございます。私ども関西情報センターは、地域に根差す会員企業の皆さまや地方自治体の皆さまに対し、こうした新しい技術や社会が抱える共通の課題とどのように付き合っていくのか、またどのように自分たちの事業で対処していけば良いのかを共に考える場、プラットフォームを提供していこうと取り組んでいるところでございます。

ここで、関西情報センターが最近取り組んでおります主要なテーマをいくつかご紹介させていただきます。まず、情報セキュリティ分野につきましては、関係する先生方のご協力も得まして、

セミナーの開催、セキュリティのご担当者がざっくばらんに意見交換出来るコミュニティ形成の場としてサロンの開催、また、セキュリティ担当人材やマネジメント人材の育成を目的とした研修プログラムを提供しております。このサイバーセキュリティ研究会につきましては、ご好評をいただいております。ようやく軌道に乗ってきたものと考えております。東京では、高度なセキュリティ人材に向けた育成の研修はありますが、関西情報センターと致しましては、むしろ関西の地で各企業のセキュリティマネジメントが出来る人材を育てていけるような場をご提供したいと



考えております。皆さま方にも是非こうした場を積極的にご活用いただければと考えております。一昨年からは、近畿経済産業局様、近畿総合通信局様と共に、関西サイバーセキュリティネットワークの事務局として、関西地域のサイバーセキュリティの向上に向けた取組みにもご協力させていただいております。次に、AIの分野におきましては、これも大学の先生や企業の方々のご協力をいただき、研究会を立ち上げ、企業の方々向けに実際にビジネスの現場でAIを活用・実装していくための技術的ノウハウを習得していただくセミナーも開始しております。AIの技術をどのように活用したらよいか、そのきっかけを提供出来るよう引き続き開催する予定ですので、こちらもご活用いただきますと幸いです。また、大阪北部地震や大型の台風等、近年多くの災害に見舞われ、将来的には南海トラフ地震についても警鐘が鳴らされておりますが、こうした災害に対応すべく、企業・自治体・国が被災情報を共有するシステムの整備に向けて、大学の先生や企業の方々のご協力をいただき研究会を立ち上げており、具体的な企画書をまとめ事業化を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆さまの積極的なご参加とご支援をお願い申し上げます。最後に、老朽化する社会インフラへの対応につきましても、大学の先生や企業の方々のご協力をいただき研究会を立ち上げており、老朽化する社会インフラの予防保全と効果的・効率的な維持管理を目的として、センサのコード管理と関連する設置データ等の標準化を図るべく取り組んでおり、これも事業化に向けて鋭意取り組む所存ですので、皆さまの積極的なご参加とご支援をお願い申し上げます。

おわりに

関西情報センターはこれからも会員企業の皆さまのために、急激に進展する情報通信に関する情報を的確にまたタイムリーに情報提供する場、そして議論し研鑽を積める場を提供出来るよう、一大情報センター、一大頭脳集団の役割を果たしてまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆さまのご指導とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

皆さまのビジネスが更に発展されることを祈念すると共に、設立50周年を迎えるにあたり私からのご挨拶とさせていただきます。